

人生からの問いかけに答えよー自殺は一つの答えかー

田中優乃

「生きる意味があるか」と問うのは、はじめから間違っている。むしろ人生の方こそが、我々に絶えず問いを提起しているのである。本論では、V.E.フランクルの実存思想を手がかりに、「人生の意味とは何か」について論じる。そしてそこから、自殺についてどのようなことが言えるのかを検討する。

第一章ではまず、人生の意味の性質について考察した。自らが他人によって取り替えられ得ないという「かけがえのなさ」と、そこから生じる「責任性」の自覚は、「人生の意味」の中核をなす。

第二章では、人間が意味を求める存在であることを、「意味への意志」について論じることで明らかにした。フロイトとアドラーの立場を挙げ、フランクルの「意味への意志」と比較した。

第三章では、「意味への意志」が「価値」へと変質することについて論じた。この「価値」への変質が、人生の意味の成就には必要である。「創造価値」、「体験価値」、「態度価値」という三つ価値の実現が、人生の意味の成就につながる。その中でも特に「態度価値」の実現が、人生を意味あるものにするために重要な役割を担う。

第四章では、以上を踏まえ、自殺について検討した。安楽死や尊厳死、切腹の事例の中に、人生の意味の成就、すなわち「態度価値」実現としての自殺と言えるものが存する可能性を残すことができた。